

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2 県土水産資源調査)

道根 淳

1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、ばいかご漁業の漁業実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行う。これにより、本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。なお、調査結果の詳細については、後述する「平成24年度の漁況」に記載した。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

当センター漁獲管理情報処理システムによる漁獲統計と各漁業者に記入依頼を行っている操業野帳を解析し、本種の漁獲動向、資源状態、価格動向、漁場利用について検討を行った。

(2) 資源生態調査

JFしまね大田支所管内ならびに仁摩支所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、銘柄別漁獲箱数から本種の殻高組成を推定した。また、村山・由木が求めたAge-length Key¹⁾を用いて漁獲物の年齢組成を求め、さらに日別漁獲データをもとにDeLury法による資源解析を行った。

3. 研究結果

(1) 漁業実態調査

平成24年のエッチュウバイの漁獲量は70.2トン、水揚げ金額は3,137万円であった。また1隻当り漁獲量は17.6トン、水揚げ金額は784万円であり、漁獲量で25%、水揚金額で36%、平年を上回った。

利用している漁場は、浜田沖から日御碕沖にかけての水深200～230m付近であり、前年利

用のなかった東経132°線より東側の漁場と日御碕沖の深場の漁場の利用が見られた。

エッチュウバイの1kg当たり平均価格は447円であり、前年を8%上回った。銘柄ごとに過去3ヶ年間の平均価格と比較したところ、「特大」～「中」銘柄では過去3ヶ年間の平均価格を上回ったが、「小」、「豆」銘柄では平成22、23年を上回ったが、平成21年は下回った。

(2) 資源生態調査

資源状態の指標となる1航海当たりの漁獲量は571kgで、平年を28%上回り、平成元年以降最高の水揚げとなった。また、1航海当たりの漁獲個数は10,296個で平年を15%上回り、平成20年以来1万個を越える水揚げとなった。1航海当たり漁獲個数の推移を見ると、平成12年以降低い水準での横ばい傾向にあり、資源状況は依然として厳しい状態が続いている。

漁獲物の殻高組成をもとに年齢分解し、漁獲物の年齢組成を見ると、4歳貝を中心に漁獲されており、今年の傾向としては、各年齢群を満遍なく漁獲している傾向がうかがえた。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばいかご漁業部会の資源管理指針として利用されており、これをもとに漁業者が自主的に漁獲量の上限を設定し、使用かご数の制限などの資源管理が行われている。

5. 文献

(1) 村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書（平成4年度），64-69（1991）